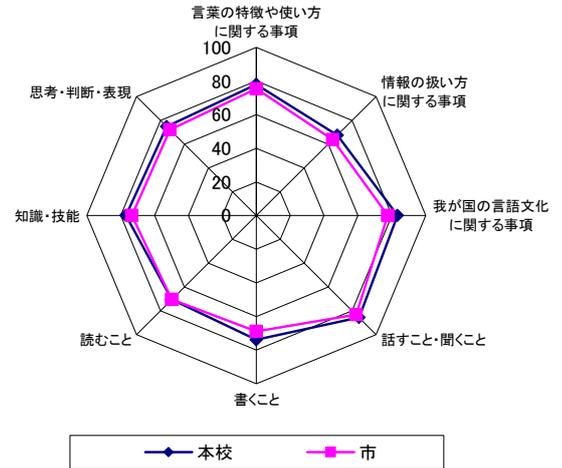


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| 領域別 | 観点別 | 本年度 | | |
|----------|-----------------|-------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 78.0 | 75.4 | 68.3 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 67.6 | 63.9 | 58.0 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 83.3 | 77.6 | 69.1 |
| | 話すこと・聞くこと | 85.7 | 83.2 | 81.6 |
| | 書くこと | 73.8 | 68.9 | 58.6 |
| | 読むこと | 70.5 | 70.5 | 65.7 |
| | 観点別 | 知識・技能 | 76.9 | 73.4 |
| 思考・判断・表現 | | 74.8 | 72.2 | 65.6 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

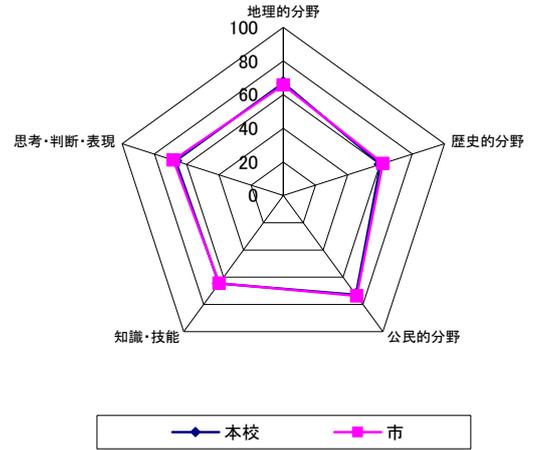
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>正答率は、市を2.6ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を書く設問では、全ての問題で市の平均を上回った。</p> <p>○用言の活用に関する設問で、5.4ポイント、敬語に関する問題で3.8ポイント、それぞれ市の平均を上回った。</p> <p>●漢字の読みの設問3問の1つで、正答率で、市の平均を4.9ポイント下回ったものがあった。</p> | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・語句や文法に関する学習については、繰り返し取り組んでいるドリル学習が効果的であったため、今後も継続していく。</p> <p>・漢字の読み書きについては、小学校での既習事項についても復習する機会を設けるなど継続して指導する。</p> <p>・文法に関する学習は、3年間を見通して積み上げていくものであるため、以前学んだことを復習を行ってから新しい事項を学習できるよう、計画的に指導していく。</p> |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>正答率は、市を3.7ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えて書く問題では、市を4.3ポイント上回っている。</p> <p>○説明的な文章の内容を読み取り、論理の展開の仕方を捉えていることに関する設問では、市を4.2ポイント上回っている。</p> | <p>・レポートに関する学習については、1人1台端末を使って記述をしたり、推敲を行ったりする学習活動を計画的に取り入れ、より指導の充実に努めていく。</p> <p>・授業中で、発問に対する考えを各自がノートにまとめ、情報を整理する学習活動を多く設定するなどの取組を、今後も継続していく。</p> |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>正答率は、市を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○歴史的仮名遣いについて理解しているかを問う設問では、市を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○現代語訳を手掛かりに古典を読む設問では、市を4.3ポイント上回っている。</p> | <p>・古典に関する学習については、逐次訳、完全傍訳等を継続的に扱い、繰り返し習得する学習を継続していく。</p> <p>・歴史的仮名遣いに関しては、語句や文法に関する学習と同様にドリル学習の機会を設けるなどして、より一層の拡充に努める。</p> |
| 話すこと・聞くこと | <p>正答率は、市を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫しているかを問う設問で、市を4.0ポイント上回っている。</p> <p>○自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話しているかを問う設問では、市を4.0ポイント上回っている。</p> <p>●話の展開を予測しながら聞いているかを問う設問では、市を0.3ポイント下回っている。</p> | <p>・プレゼンテーションやスピーチ等、話し手に耳を傾け聞く活動では、メモを取りながら内容を整理するとともに、表現の工夫についてもメモを取れるようにするなど、ワークシートの工夫を図っていく。</p> |
| 書くこと | <p>正答率は、市を4.9ポイント上回っている。</p> <p>○レポートを書く、文章を書くことに関する7つの設問では、全て市を上回っている。</p> | <p>・授業の中で、発問に対する考えをノートに書いて整理する学習活動を多く設定する取組を、今後とも継続していく。</p> |
| 読むこと | <p>正答率は、市と同じ値である。</p> <p>○文学的な文章を読み取り、文章の用言の仕方について評価する設問では、市を1.9ポイント上回っている。</p> <p>●文章の論理の展開の仕方を捉えているかを問う設問では、2問中2問とも市を下回っている。</p> | <p>・指示する語句や接続する語句に着目し、論理や物語の展開を捉えて読むようにする学習活動を、継続的に行っていく。</p> <p>・正確な読解とともに、展開や表現が適切であるかを批評しながら読解する読み方についても意識を向けられるよう、授業で使うワークシートの工夫を図る。</p> |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 地理的分野 | 67.0 | 65.7 | 56.7 |
| | 歴史的分野 | 60.3 | 61.7 | 54.8 |
| | 公民的分野 | 72.9 | 73.8 | 73.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 64.6 | 64.5 | 59.5 |
| | 思考・判断・表現 | 66.8 | 68.2 | 55.6 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

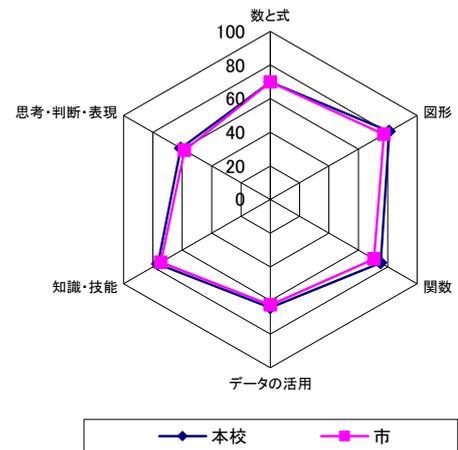
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 地理的分野 | 正答率は、市を1.3ポイント上回っている。 ○日本の各地方の産業について、複数の資料に着目し表現する記述問題では、市を3.2ポイント上回っている。 ○九州、中国・四国、近畿地方の工業の特色について理解する問題では、市を7.9ポイント上回っている。 ●九州地方の農業の特色について、資料に着目して考察し表現する問題では、市を3.6ポイント下回っている。 | ・課題解決学習の際、1人1台端末を積極的に活用し、豊富な情報から必要な情報を適切に選択して、考察したりまとめたりする活動を多く取り入れる。 ・経線・緯線、大陸や海の地形を鳥瞰することができるように、ICT機器を効果的に活用した学習活動を工夫する。 ・資料活用の問題を解く時間を授業中に設けることで読み解く力を身に付けさせていく。 |
| 歴史的分野 | 正答率は、市を1.4ポイント下回っている。 ○「古代までの日本」の問題では、正答率が6問のうち3問が市を上回っている。 ●「近世の日本」の問題では、正答率が7問のうち5問が市を下回っている。 ●「近世の日本」の対外関係における琉球の役割について理解する問題では、市を8.0ポイント下回っている。 | ・資料を読み取る力を向上させるため、ICT機器を活用して視覚的な資料だけではなく、聴覚的な資料などを取り入れて、多角的に分析する活動を行う。 ・社会的な思考・判断・表現の力を向上させるため、話し合い活動や文章でまとめる取り組みを継続して実施する。 ・「宇都宮学」や地域の歴史について触れる学習を随時取り入れる。 |
| 公民的分野 | 正答率は、市を0.9ポイント下回っている。 ○日本の高齢社会について、資料を読み取る問題では、市を8.7ポイント程度上回っている。 ●憲法改正の手続きについて理解する問題では、市を9.8ポイント下回っている。 | ・「人間の尊重と日本国憲法」では、日本国憲法の基本原理を知識として理解するだけでなく、日常生活の様々な場面で憲法が活かされていることを体験、追究させる学習活動を工夫する。 ・ICT機器を活用して様々な資料を分析し、授業の振り返り活動で分析結果を表現する活動を取り入れる。 |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と式 | 69.9 | 69.9 | 66.4 |
| | 図形 | 81.1 | 77.4 | 68.1 |
| | 関数 | 75.2 | 70.6 | 60.8 |
| | データの活用 | 64.3 | 62.7 | 54.2 |
| 観点別 | 知識・技能 | 76.6 | 74.6 | 70.3 |
| | 思考・判断・表現 | 61.0 | 58.4 | 43.3 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

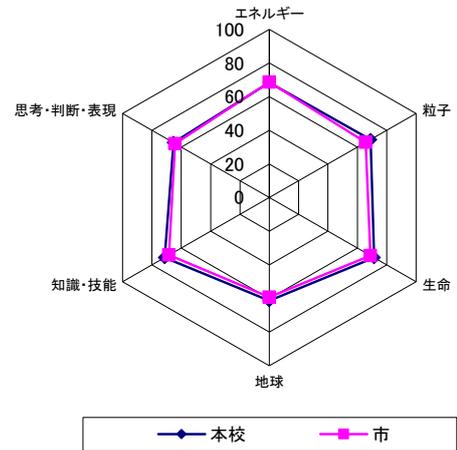
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|---|
| 数と式 | <p>正答率は、市と同ポイントである。</p> <p>○式の計算や方程式に関する問題は、ほとんどの問題で市を上回っている。</p> <p>○適切な連立方程式を立式するなどの記述の問題で市を上回っている。</p> <p>●式の展開と因数分解や平方根に関する問題では、ほとんどの問題で市を下回っている。特に平方根の大小では、市を5.1ポイント下回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力を高めるため、計算の復習問題を授業の最初に時間を設定する。 論述問題に取り組む場面を設定し、自分の考えを数学的な用語を用いて表現する場面を授業の中で積極的に取り入れる。 各学年の計算の授業において習熟度別学習を取り入れ、基礎・基本の確実な習得を図る。 |
| 図形 | <p>正答率は、市を3.7ポイント上回っている。</p> <p>○おうぎ形の面積を求める問題では、市を4.2ポイント上回っている。</p> <p>○正しい三角形の合同条件を判断し、証明を完成させる問題では、市を5.6ポイント上回っている。</p> <p>●線分の中点を垂直二等分線によって作図する問題では、市を0.6ポイント下回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、図形を自ら動かして、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。 生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じて主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。 |
| 関数 | <p>正答率は、市を4.6ポイント上回っている。</p> <p>○関数の分野のすべての問題で、市を上回っている。</p> <p>○ある1次関数のx軸、y軸との交点からできる三角形について面積を求める問題では、市を10.3ポイント上回っている。</p> <p>●問題の条件に合う点の座標を求める問題では、無回答率が25パーセントと高かった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で、1、2年次の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。 日常生活と関連付けた内容のレポート等を作成する学習活動を取り入れ、グラフの書き方や式の求め方を考えさせる。 表と式とグラフの相互の関係を授業内でしっかりと確認し、関数の概念を獲得できるようにする。 |
| データの活用 | <p>正答率は、市を1.6ポイント上回っている。</p> <p>○4枚のカードから2枚取り出して2けたの整数をつくる時の確率を求める問題では、市の正答率を11.3ポイント上回っている。</p> <p>●箱ひげ図から読み取れるものを判断する問題では、市を2.2ポイント下回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> グラフや箱ひげ図の特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。 身近な資料を用いた教材を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を作成し、分析する学習活動を取り入れることで、学習内容の定着を図る。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | エネルギー | 68.4 | 68.7 | 63.6 |
| | 粒子 | 69.0 | 65.7 | 64.2 |
| | 生命 | 71.4 | 68.9 | 64.4 |
| | 地球 | 61.3 | 59.2 | 54.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.3 | 68.4 | 64.4 |
| | 思考・判断・表現 | 65.3 | 64.2 | 60.3 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

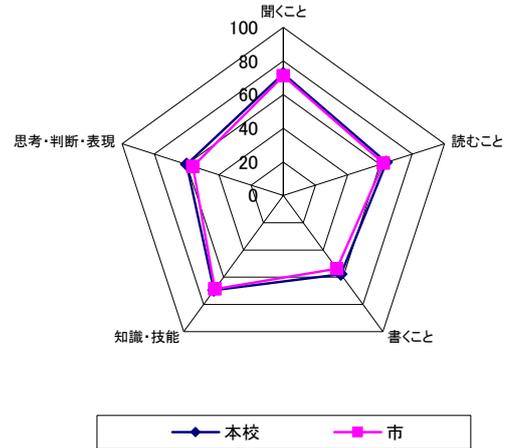
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|--|
| エネルギー | <p>正答率は市平均を0.3ポイント下回った。</p> <p>○テープの長さから、台車の平均の速さを求める問題は7.9ポイント上回った。</p> <p>○容器から空気を抜いていったときの音の大きさとテープの様子を推測する問題では市平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>●斜面の角度から、台車の速さの大きさの変化を推測する問題では市平均を6ポイント下回った。</p> | <p>・作図を多く演習して、合力・分力をとらえられるようにする。</p> <p>・基礎的な内容の定着を図れるよう、繰り返し問題演習を行う。</p> |
| 粒子 | <p>正答率は市平均を3.3ポイント上回った。</p> <p>○蒸留について理解しているかの問題では市平均を12.3ポイント上回った。</p> <p>○液体を加熱するとき沸騰石を入れておく理由を説明できるかの問題では市平均を7.3ポイント上回った。</p> <p>●化学変化の分解について理解しているかの問題では市平均を4.4ポイント下回った。</p> | <p>・粒子と化学変化の様子を関係づけて捉えさせたい。そのために、ICTに限らず、視覚的・感覚的にとらえられるモデルを取り入れた指導を行う。</p> <p>・実験で起こった現象を粒子で検討する活動を増やす。</p> |
| 生命 | <p>正答率は市平均を2.5ポイント上回った。</p> <p>○実験結果から、唾液のはたらきを考察する問題では市平均を8.4ポイント上回った。</p> <p>○無性生殖についての理解に関する問題では市平均を6.4ポイント上回った。</p> <p>●卵、精子、体細胞の染色体数について推測する問題では、市平均を5.1ポイント下回った。</p> | <p>・生物の種類と染色体の数、有性生殖と無性生殖の染色体の様子を図示したり、課題を提示したりして、生徒が説明する活動を通して、有性生殖と無性生殖の違いについて、表現させる。</p> <p>・対照実験の意味についてなど、基本的な内容の定着を図るため、記述式の課題を増やす。</p> |
| 地球 | <p>正答率は市平均を2.1ポイント上回った。</p> <p>○気温、湿度、気圧の観測記録について指摘できるかについて、市平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>○御影石(花崗岩)が取れる採石場が、どのようにしてできるのかを推測する問題では市平均を4.7ポイント上回った。</p> <p>●岩石を比較して特長を説明する問題では、市平均を1.2ポイント下回った。</p> | <p>・それぞれの知識を現象につなげられるように、自分たちで説明する活動を取り入れる。</p> <p>・身近な現象を実際に見ながら、大きな自然の現象について、捉える助けとする。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 聞くこと | 72.5 | 71.2 | 65.4 |
| | 読むこと | 64.0 | 62.1 | 56.9 |
| | 書くこと | 57.9 | 53.8 | 42.5 |
| 観点別 | 知識・技能 | 69.5 | 68.8 | 64.7 |
| | 思考・判断・表現 | 60.0 | 56.1 | 45.8 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------|--|---|
| 聞くこと | <p>正答率は、市を1.3ポイント上回っている。</p> <p>○英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答える問題では、正答率が57.9%と比較的高く、市を8.9ポイント上回っている。</p> <p>●人物や動物などを説明するの英文を聞き、その内容を理解しているかを問う問題では、正答率は平均80%をマークしたが、市を平均3.0ポイント下回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で適切な場面設定をし、場面に合った会話力を養う。 生徒同士、ALTを含めた教師と生徒での英語のやり取りをする機会を増やし、英語に親しむ場面を積極的に取り入れる。 教科書の問題に取り組みせるだけでなく、英語の使用頻度を増やす学習場面を多く設定する。 |
| 読むこと | <p>正答率は、市を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○比較的長い英文(メール)を読み取る問題では、市を6.7ポイント上回っている。</p> <p>○対話文を読み、受け身の文法事項を理解しているか問う問題では、市を10.2ポイント上回っている。</p> <p>●対話文を読み、疑問詞+to不定詞の文法事項を理解しているか問う問題では、市を8.6ポイント下回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた表やポスターを用いている英文を読む機会を増やし、英文や表に書かれた情報を素早く正確に読み取る活動を取り入れる。 英語を用いた表やポスターが織り交ぜられている問題に授業に取り入れ、様々な場面で英語に親しませる。 |
| 書くこと | <p>正答率は、市を4.1ポイント上回っている。</p> <p>○対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書く問題では、市の平均を6.9ポイント上回っている。</p> <p>●英文を正しい語順で書く問題(be going to ~の疑問文)は、市の平均を4.2ポイント下回っている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 単語の知識や基本的な文法の定着が図れるように、授業の初めに振り返りテストを行う。 書くことへの抵抗感を減らすために、自己表現の時間を増やし、自分の意見や考えを、まとまった英文で書く力を身に付けさせる。 文法事項の定着を図るため、ドリル問題を多く取り入れ正しく書く練習を行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--|--|--|
| <p>・自主学習ノートの活用 (学習習慣の定着と、家庭学習の充実を目指して)</p> | <p>・生徒は、毎日1ページ以上を目安として自主学習ノートを活用する。</p> <p>・学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。</p> <p>・定期テスト対策問題を学芸委員が作成し、1週間前に生徒に配布し、テストに向けて、生徒の学習意欲向上を図る。</p> | <p>「ふだん、学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いから、3時間以上学習している生徒が各学年とも存在するが、30分未満の生徒の割合も少なくない。本校で継続している自主学習ノートの活用により、学習習慣の定着が図られ、家庭で学習する習慣はおおむね身に付いている。</p> <p>一方で、学力に関する調査項目では、平均正答率が市を下回っている項目も多く存在しているため、今後は学力向上を目標とした、自主学習ノートの内容充実に向けた指導を工夫していく。</p> |
| <p>・論理的に考え、思考を深め合う学習</p> | <p>・早く正確に読みとり、他の考えをきちんと聞きとり、論理的に言語表現するなどの「共に学ぶ力の育成を目指した授業」を推進する。</p> <p>目標の明確化と振り返り活動 研究授業を通しての授業改善 ミニ研究授業 等</p> | <p>「先生や友達の話をも、最後まで聞いている」「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の問いの肯定割合が、ほとんどの学年で市を上回っている。授業中に学び合い活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。</p> <p>今後も、その力を向上させていくために、授業の発問の工夫をするなど、教員の意識向上を継続させる。</p> |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「勉強が好きですか」の質問で「好きではない」と回答した生徒が3年で2割を超えている。基礎・基本の十分な定着がなされていないことが要因であると考えられる。思考力、判断力、表現力等を高めていくためにも、基礎・基本の確実な定着は最重要課題である。各教科で、基礎・基本の確実な定着を目指して、指導方法や学習形態を工夫し、授業改善を図っていく。
- ・定期的に国・県・宇都宮市の調査結果を分析し、対策を話し合うことにより、学習指導上の課題を組織的に解決できるよう、校内研修の充実に努めていく。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、学習課題の提示、中心的な学習活動や活動に適した学習形態の工夫、活動を充実させる1人1台端末の活用、学習意欲を引き出す発問、思考を助ける板書、まとめや振り返りの場の設定など、1単位時間の授業の質を向上させる。